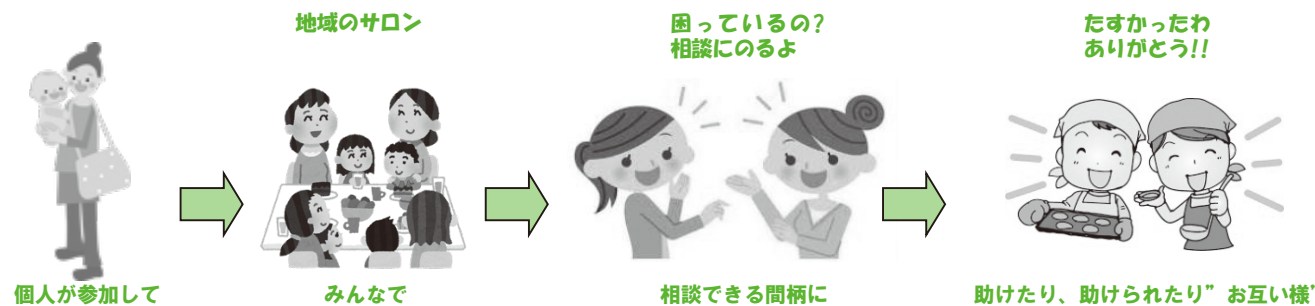


- ◆ 地域には、既にいろいろな集いの場やコミュニティサロンがあります。そこでは、参加者同士が互いに会話を交わし、気かけあう合うことから、つながりが生まれています。さらにつながりが深まり、相談し合ったり、助け合いの活動にもつながっている地域もあります。それぞれの人が、それぞれの心地良い居場所＝集いの場やコミュニティサロン等を持ち、人とのつながりを大切にしていきましょう。
- いろいろな集いやコミュニティサロンが増え、充実していくとよいですね。

<市内にある集いの場やコミュニティサロンなど 例えば>

地域	主 体	形 態
市全域	個人・団体	親子のつどい 介護者のつどい 「ほっとあんしんサロン」
	介護保険施設・事業所	地域交流の祭りやイベント 認知症カフェ・相談会
	社会福祉協議会 関係団体実行委員会	共生型親子サロン ボランティアフェスティバル 障害のある方の社会参加のつどい
中学校圏域	個人・団体 地区組織	少し虚弱な方のサロン「ほがらか会」親子サロン 地区ごとのイベント
町(内)会	町(内)会	公民館開放 公民館カフェ コミュニティサロン 地域カフェ いきいきサロン

地域では「子ども食堂」や、「みんなの食堂」の動きも広がっています。



能美市に暮らすひとりが、地域のいろいろな集いの場やコミュニティサロンなどに参加し、自分の居場所と役割を持つ活動を大切に考えていきましょう。

また、これらの「助けたり、助けられたりの地域づくり」の活動を応援するものとして、共同募金などの「寄付文化」にも理解を深め、皆さんが参加していくことも必要となっています。

活動することも、応援することも、つながりあって「助けたり、助けられたりの地域づくり」が進んでいきます。

さあ、私たちの手で、私たちのまちづくりを進めていきましょう!!

この計画の進捗状況は、市社会福祉協議会の広報誌やホームページ等で随時情報発信していきます。また、毎年2、3月に開催している「春まちぼかぼかプロジェクト」では、市民の地域福祉のいろいろな取り組みを紹介していきますので、ぜひ関心を持ち、ご参加下さい。

【発行責任者】 社会福祉法人能美市社会福祉協議会
〒923-1121 能美市寺井町た8番地1
TEL 0761-58-6200 FAX 0761-58-6250

<http://www.nomi-shakyo.jp/> E-mail@nomi.nomi-shakyo.jp/



*計画書冊子は、能美市社会福祉協議会においてあります。音訳テープについてもお気軽にお問合せください。

概要版

第3次 能美市地域福祉活動計画

【平成30年度～平成34年度】

私たちのまちづくり
大作戦!

“助けたり、助けられたりの地域づくり”



能美市地域福祉活動計画は、住民が参画し、住み慣れた地域で、だれもが互いに信頼し合って暮らせる福祉の地域づくりのための取り組みを協議し、推進している計画です。第1次計画(平成20～24年度)、第2次計画(平成25～29年)を踏まえ、第3次計画(平成30～34年度)を能美市の「能美市総合計画」や「能美市地域福祉計画」等の福祉関連計画と関連性を確認しながら策定しました。

第3次能美市地域福祉活動計画では、ひとり一人の生活課題を我が事と捉え、皆で検討していく地域づくりを進めること、生活支援の支え手側と受け手側に分かれるのではなく、お互い様の関係ができること、また、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できること、そして、このことを住民だけではなく、専門職、関係機関等多くの職種の担当者が力を合わせながら、丸ごとの地域づくり＝地域共生社会の推進に取り組んでいきます。

キーワードは「助けたり、助けられたりの地域づくり」です。

能美市に暮らす「私たちのまちづくり大作戦」として、能美市らしい地域共生社会の構築に取り組みましょう。

みなさ～ん
出番ですよ～!!



地域福祉推進のマスコットの
のんちゃん

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

私たちが取り組む能美市地域福祉活動計画

◆ 基本理念

住み慣れた地域で、私らしくいきいきと、互いに信頼関係を高めながら暮らせるように、私たち自らが主体となって、地域のあたたかいつながりをもとめ、暮らしの中の様々な問題の解決に向けて、互いに支え合うことのできるまちづくりを目指します。

住民参画型 ところ豊かな信頼社会の創造

◆ 基本目標

助けたり、助けられたり、私らしくいきいきと 幸せ感を持って暮らせる地域づくり

◆ 方針

目標に向けて実現する方針として、住民参画を基本とし、自助互助の活動の活発化をめざすことを、大きく2つに分けて示します。

- ・自助互助による、共生のための意識づくり
- ・自助互助による、見守り助け合いのしくみづくり

※第3次能美市地域福祉活動計画では、人は助けるばかりではなく、他者の困りごとに気づいたり、手助けしたり、“お互い様”で助け合うということを「自助互助」と表記して一体的に扱っていくことにします。

◆ 住民参画ですすめる計画の推進体制

住民参画の委員会をもって協議します。

【第1次計画】 平成20年度～平成24年度

- ・地域福祉人づくり委員会
- ・地域福祉ネットワークづくり委員会
- ・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会
- ・私たちのボランティアセンターづくり委員会

- ◆「アクションプラン推進協議会」(上記4委員会の進捗管理)



アクションプランは、第1次計画において、地域福祉向上に向けて取り組んだ「目指す項目」のことです。

積み上げ、つないで

【第2次計画】 平成25年度～平成29年度

- ・ところに寄り添える人づくり委員会
- ・地域見守りネットワークづくり委員会
- ・支えあいのしくみづくり委員会

- ◆「あたたかい地域づくりの会」(上記3つの委員会の連携)



積み上げ、つないで

第2次計画の上記3委員会ごとに第3次計画につなぐ課題を挙げたところ、少なからぬ重複が見られ、整理した結果、2委員会による体制で、より効率よく統一感を持ち進めることとなりました。

【第3次計画】 平成30年度～平成34年度

- ・ところに寄り添い合う人づくり委員会
- ・見守り・助け合い推進委員会

- ◆「ところ豊かな地域づくりの会」(上記2つの委員会の連携と、5年後に向けての協議)

◆ 推進体制

ところ豊かな地域づくりの会

共生理解の拡充と、地域ぐるみで人を育てる意識づくり、

しくみづくりを進めることを協議します。



ところに寄り添い合う人づくり委員会

めざすこと

- ◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。
 - ① 障害に対する理解を深める場・機会づくりを進めます。
 - ② 福祉施設と住民が話し合う研修や連携の情報交換の場づくりを進めます。
 - ③ 地域ぐるみで子育てを考える場・機会づくりを進めます。
- ◆福祉教育の充実に向けての機会づくりを進めます。
 - ④ 多様な世代が関わる学びや話し合いの機会づくりを進めます。
 - ⑤ 男性が子育てや共生社会に対して理解を深める機会づくりを進めます。
 - ⑥ 企業・事業所等が子育てや共生社会に対して理解を深める機会づくりを進めます。
 - ⑦ 困窮世帯や孤立世帯への見守りや寄り添いなどの理解を深める機会づくりを進めます。

見守り・助け合い推進委員会

めざすこと

- ◆地域の中で気軽に悩みを相談したり、話し合える場・集いの場づくりを進めます。
 - ① 地域福祉委員会における地域ぐるみの見守り・助け合い活動の活性化を進めます。
 - ・認知症・権利擁護・虐待・生活困窮・社会的孤立・住宅問題・就労問題等多様な問題やその対応を学び、解決に向けて取り組むことを進めます。また、自主防災組織との連携などを進めます。
 - ② 福祉施設・企業・商店等も含む地域ぐるみの見守り・助け合いの連携を進めます。
 - ③ 地域住民ができる生活支援に関する助け合い活動の拡充を進めます。
- ◆多様な人材がボランティアや助け合い活動に関わることを進めます。
 - ④ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充を進めます。

委員 15 人

委員 15 人

町会連合会、自治公民館連絡協議会、民生委員児童委員協議会、婦人団体協議会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協議会、手をつなぐ育成会等福祉団体、ボランティア連絡協議会、高齢・障がい福祉施設、商工会、学校教育関係、行政など、社会福祉協議会の評議員選出団体を中心とする関係機関から、第3次計画を推進する上記2委員会委員が推薦され、協議していきます。つまり、地域の皆さんが関わる、皆さんの計画です。

- ◆ 2つの委員会は、取り組みの活動内容や連携に関する課題などを、「ところ豊かな地域づくりの会」に報告します。
- ◆ 「ところ豊かな地域づくりの会」の役割は、共通の課題や、新たな課題の解決に対応する推進体制を整理し、5年間をかけて信頼社会の構築に向けて協議を重ねると同時に、計画全体の進捗状況や協議内容を確認し、住民への報告に努めます。
- ◆ 第3次能美市地域福祉活動計画を評価する体制 **能美市地域福祉活動計画評価委員会** を設置し、進捗状況や協議内容等を毎年度評価します。また、評価の住民向け報告は3年目と5年目に行い、市社会福祉協議会ホームページにおいて、広く情報公開していきます。

1次計画、2次計画を経て、地域福祉の活動の一つ一つ積み重ねることが、まさにその地域における福祉文化及び、その文化土壌を作っていくことになることや、多様な視点で議論を深め、取り組み、振り返り、改善していくことの繰り返しは個人の成熟となり、地域の成熟へとつながっていくことを評価してきました。これからは、“お互い様”の気持ちを大切に、困った時に、声をあげる＝素直に助けると言える環境づくりをすすめていきます。